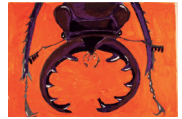


ほん この本にでてくる虫たち



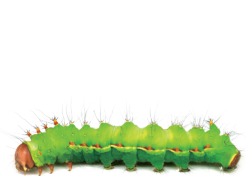
アゲハ (ナミアゲハ) *Papilio xuthus*

身近にみられるチョウのひとつです。幼虫はミカン類の葉を食べます。



ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus*

オスの頭には、ほかのクワガタにはない突起があります。「ミヤマ」とは奥深い山(深山)のことで、山に行くときによく見つかります。幼虫は朽ち木を食べます。



オオミズアオ *Actias aliena*

鮮やかな水色の翅が美しい。幼虫はたくさんの葉をむしゃむしゃ食べますが、成虫になると口がなくなるので、何も食べなくなります。



ギンヤンマ *Anax parthenope*

最も普通に見られるヤンマのなかまで、学校のプールに飛んでくることもあります。成虫はすばやく飛ぶため、捕まえるのは難しいです。幼虫は「ヤゴ」とも呼ばれます。



ミンミンゼミ

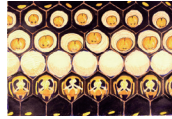
Hyalessa maculaticollis

みどりいろの美しいゼミです。関西では山の近くで見られることが多く、街中ではめったに出会えないです。幼虫は木の根の汁を吸って育ちます。



ヒトスジシマカ *Aedes albopictus*

刺されるとかゆくなることで有名。人の血を吸うのはメスだけで、オスは花の蜜を吸うと言われています。幼虫は“ポウフラ”と呼ばれ、小さな水たまりなどで発生します。



オオスズメバチ *Vespa mandarinia*

一番大きなスズメバチ。凶暴でカッコイイですが、刺されると死ぬこともある危険な虫です。

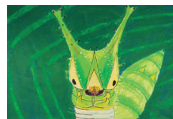


ヘビトンボ *Protohermes grandis*

つぶらな腫がかわいいです。しかし肉食で大きなアゴをもつので、かまれないように注意。幼虫は清流にすみ“孫太郎虫”とも呼ばれています。

ウスバカゲロウ *Baliga micans*

幼虫は“アリジゴク”と呼ばれ、乾いた砂地にすり鉢状の巣をつくり、落ちてきた虫の体液を吸います。成虫はトンボのような姿をしていますが、トンボの仲間ではありません。



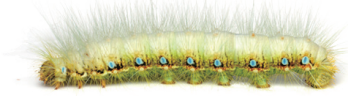
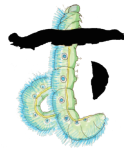
オオムラサキ *Sasakia charonda*

日本の里山を代表するチョウです。成虫は木の高いところをすばやく飛ぶため、捕まえるのは難しいです。樹液や地面の水を吸っているときに狙い目。夏～秋に卵から孵化した幼虫は、冬の間は枯れ葉に隠れて過ごします。そして翌春にたくさん葉を食べて大きく育ち、初夏に成虫となります。





フクラスズメ *Arcte coerulea*



クスサン *Caligula japonica*



オオムラサキ *Sasakia charonda*



ヤママユ *Antheraea yamamai*



ルリタテハ *Kaniska canace*



アサギマダラ *Parantica sita*



クロメンガタズメ *Acherontia lachesis*



写真はありません

シロシャチホコ *Cnethodonta japonica*



ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*



モモズメ *Marumba gaschkewitschii*



アケビコノハ *Eudocima tyrannus*



クロコノマチョウ *Melanitis phedima*



写真はありません

オナガアゲハ *Papilio macilentus*



モンキアゲハ *Papilio helenus*



タガメ *Kirkaldyia deyrollei*